



下板井原へやって参りました！

訪問日 平成27年7月4日(土)



智頭トンネル（国道53号線）上の旧因幡街道



旧因幡街道の入り口(市ノ瀬集落)には、六地蔵が立っていました。旅の安全を願ってのことでしょう。

六地蔵のあるこの道は、江戸時代の人達が参勤交代で通っていた道です。実際に歩いてみると石や草木の枝が多く、足元が危なかったもので、通るのに大変だったんだなと思いました。ちなみにこの道はササガホキといいます。



智頭板井原集落の下流4kmのところに用瀬町旧下板井原集落がありました。この集落は昭和54年に下流の用瀬町鷹狩に集団移転して、現在は誰も住んでいません



下板井原集落を進んでいくと、「板井原の里」と刻まれた碑がありました。昭和54年4月に集団移転したことがわかりました。ここに確かに人が住んでいて、なんだか不思議な感覚を覚えました。

下板井原集落付近を流れる川です。とてもきれいな水です。上板井原から流れてきます。





集落内を進むと、一軒の家が見えました。この家だけは、集落内で唯一手入れされているようで、しっかりとした家として残っています。



この3枚の写真の中の家は下板井原集落内のものです。今は全く手入れされず、崩れかけています。人の手が入らない家は森に帰っていきます。

この1枚の写真は現在の上板井原集落にある家です。この家も、手入れされていません。このまま手を加えなければ崩れてしまいます。この家に限らず、手を加えなければ集落全体が崩壊しかねません。上板井原の将来の姿がみえてくるようです。

